

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2024年7月17日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋作 様

所属部局・研究科 大学院医学研究科 腫瘍生物学講座

職名・学年 助教

氏名 越智 陽太郎

助成の種類	令和6年度 ・ 国際研究集会発表助成			
研究集会名	EHA2024 Hybrid Congress 欧州血液学会2024			
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他(
発表題目	Chromatin accessibility profiling reveals epigenetic heterogeneity in acute myeloid leukemia クロマチンアクセシビリティプロファイリングによる急性骨髄性白血病におけるエピジェネティック不均一性の解明			
開催場所	スペイン・マドリッド			
渡航期間	2024年6月12日 ～ 2024年6月18日			
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()			
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000円		
	使用した助成金額	350,000円		
	返納すべき助成金額	0円		
	助成金の使途内訳	費目	金額(円)	
		航空運賃	199,120	
		宿泊費	66,000	
		滞在費	0	
		学会参加費	122,431	
その他		19,780		
	以上に助成金を充当			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)			

成果の概要

医学研究科 助教
越智陽太郎

貴財団による国際研究発表助成について、下記の通り成果概要を報告いたします。

成果の概要

この度はスペイン・マドリッドで開催された欧州血液学会 2024 の渡航に際し、ご支援を賜り誠にありがとうございます。本学会では、私の研究している急性骨髄性白血病(AML)の大規模エピゲノム解析の研究成果について、口頭発表を行ってまいりました。

AMLは予後不良の造血器腫瘍で、患者間の多様性が非常に高いことで知られる疾患です。以前には白血病細胞の形態に基づいて診断が行われていましたが、近年のゲノム解析技術の向上に伴い、現在ではAMLにおいて遺伝子・染色体異常が重要な役割を果たすことがよく知られるようになり、AMLの分類・予後予測・分子標的薬の対象選定などに遺伝子異常が広く用いられています。しかし、最新のゲノム解析をもってしても、分類や分子標的薬の対象遺伝子変異が見つからない例や、あるいは同一の遺伝子異常があっても異なる臨床転帰をたどる例が多く認められ、AMLの治療成績は現在でも満足のいくものではありません。そのため、ゲノム以外の分子情報、特にエピゲノム、の全容解明が望まれています。私は今回、世界で最大規模となるAML患者コホートにおいて、ATAC-seqというクロマチンの網羅的解析手法を用いて、エピゲノム解析を行いました。その結果、AML特異的なゲノム上のクロマチンオープン領域を多数同定したほか、そのプロファイルに基づいてAML患者をいくつかの異なる分子サブタイプに分類できることを示しました。

上記の研究成果を口頭発表し、その後の質疑では遺伝子変異とエピゲノムの関係や、エピゲノムの臨床応用についてなど、次に取り組むべき課題を多く議論することができました。

そのほか、聴講した口演セッションはいずれもレベルが高く、例えば基礎研究では、最新のシングルセル解析に基づく造血器腫瘍の病態解明に関するセッションが興味深かったです。そのほか、教育口演では、造血器腫瘍の *TP53* 変異の分子機序や臨床的意義、治療標的としての可能性について深く考察されており、私の取り組んでいる研究にも示唆を与える内容でした。ポスター発表会場では、比較のカジュアルなコミュニケーションが活発におこなわれており、造血器腫瘍の遺伝子変異に関する研究について、同世代の研究者と情報交換を行いました。

謝辞

以上のように、大変有意義な学会参加となり、今後の研究の進展にもつながる重要な成果を得ることができました。ご支援下さりまして改めましてありがとうございました。